

愛媛県四国中央市妻鳥町に定着したメヒルギ

後藤益滋¹・尾寄蓮月¹

¹ 人間環境大学総合環境学部フィールド自然学科水域保全研究室



写真1 *Kandelia obovata* メヒルギ a. 樹形全体（満潮時），b. 実生株，c. 胎生種子，d. 花卉（愛媛県四国中央市妻鳥町，2025年7月30日，後藤益滋撮影）

種の記録

Rhizophoraceae ヒルギ科

Kandelia obovata Sheue, H.Y.Liu and J.W.H.Yong, 2003 メヒルギ(写真1)

確認記録 確認年月日: 2025年7月27日. 確認地点: 愛媛県四国中央市妻鳥町(34.000203N, 133.558569E).

種の特徴

観察個体は、他のマングローブ植物と比べて根が板根であること、葉は楕円型で先端は丸いこと、果実は卵形で宿存萼が内側へ反り返り、耐性種子は細くて滑らかであることなどの特徴(NPO 法人おきなわ環境クラブ, 2003; Sheue et al., 2003)がメヒルギと一致しているため、本種と同定した。

備考

本種は日本では九州南部から沖縄諸島にかけて自生し、鹿児島県が自然分布の北限である(鹿児島市, 2025; 中須賀ほか, 1974)。一方で、植栽によって熊本県天草や静岡県南伊豆町にも定着しており、南伊豆町青野川河口(北緯34度38分)が、その最北限となる(末松・水戸, 2004)。本州西部および瀬戸内海沿岸では、これまで本種の生育や繁殖は報告されていない。今回、生育の最北限に近い愛媛県四国中央市妻鳥町(北緯34度0分)で確認された株は、樹高2.35m、樹径0.63mの1株で、花卉や耐性種子を形成しており(写真1c, d)、樹齢が進んでいるものと推察される。また、周囲約15.44m²には丈が0.3m~1m程度

の実生株(写真1b)が13本生育していた。こうしたことから、本種は確認地点で繁殖していると考えられ、将来的には群落を形成する可能性がある。

引用文献

- Sheue CR, Liu HY, Yong JWH. 2003. *Kandelia obovata* (Rhizophoraceae), a new mangrove species from Eastern Asia. TAXON, 52: 287–294.
- 鹿児島市. 2025. 国指定 特別天然記念物「喜入のリュウキュウコウガイ産地」(<https://www.city.kagoshima.lg.jp/kyoiku/kanri/bunkazai/bunka/bunka/bunkazai/documents/mehirugi0219.pdf>, 2025年8月28日参照)。
- 中須賀常雄・大山保表・春木雅寛. 1974. マングローブに関する研究 I. 日本におけるマングローブの分布. 日本生態学会誌, 24(4): 237–246.
- NPO 法人おきなわ環境クラブ. 2003. おきなわのマングローブ. おきなわ自然環境ガイドブック(5). NPO 法人おきなわ環境クラブ, 那覇市. 90pp.
- 末松信彦・水戸喜平. 2004. 南伊豆町湊の青野川河口に生育するメヒルギの特性. 静岡県農業試験場研究報告, (49): 51–62.

(2025年8月16日受付, 2025年8月30日公開)

連絡先: 後藤益滋 (e-mail: m-goto@uhe.ac.jp)

(Masuji Goto and Renge Ozaki. 2025. Establishment of *Kandelia obovata* (Rhizophoraceae) in Tsumatori, Shikoku-chuo City, Ehime Prefecture, Japan. NS Fieldnote, 25018)